



長崎大水害を振り返る 浜の町などを取材



(上) 現在の観光通り
(下) 長崎大水害当時の観光通
2枚の写真は同じ場所を撮影

(上) 長崎大水害当時の観光通。
(下) 上の写真が現在のどのあたりを撮影したものか
調べて回り、その場所を確認しているところ。

◆長崎大水害から40年

今から約40年前の昭和57年（1982年）7月23日の夕方に長崎大水害が発生した。短時間の降雨量は日本の観測史上最大級であった。この豪雨災害は死者・行方不明者299人、住居の全壊・半壊1538棟、床上浸水17909棟という大規模な災害となった。死者・行方不明者299人の約90%は土砂災害による被害であった。

◆浜の町などでフィールドワーク

今年は長崎大水害から40年という節目の年であり、南高新聞部はこの節目の年に改めて大水害について取材をしてみることにした。

5月3日、浜の町や中島川周辺で1回目のフィールドワークと取材を行った。

今回の取材はNBC長崎放送に大水害直後の市内の様子を撮影した写真を提供していただき、その写真がどこで撮られたものなのかを調べ、実際にその場所へ行き、当時の被害状況を想像したり、大水害を体験した住民に話を伺った。この日の活動は5月29日の深夜に放送されたNBCの長崎大水害の特集番組で取り上げられた。

◆日頃から災害に備えることが大切

取材に参加した部員の一人は「今の街の姿を見ていると大水害が起こったことが信じられないと思った。ひとたび災害が起こると街の様子が一変することに恐さを感じた。日頃から災害に備えることが大切だと思った」と感想を語った。

【長崎南高新聞（みなみプラス）の記事より】